

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名： 附属図書館

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	自己評価
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	自己評価
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	<p>平成23年度に決定された、学内研究プロジェクト成果や博士論文の原則公開義務化を受けて論文の収集を行い、平成24年9月の学位授与者からは許諾確認書は100%の提出を受け、許諾数も66%となっている。学内プロジェクト成果論文についても累計で72論文の採録となった。岡山大学出版会事業においても、4点の岡山大学版教科書と1点の企画図書(池田家文庫資料叢書2上)を出版した。</p> <p>また、所蔵する貴重資料を利用した池田家文庫絵図展(入場者1,892名)、公開講座(絵図をもって岡山を歩こう パート2、参加者122名)を新たなコースで実施するなど、地域に広く歴史資料を紹介することに努めた。さらに、図書館振興財団からの助成を受け、新たに三浦家文書デジタルギャラリーの公開を開始した。池田家文庫絵図データベースのリニューアルを行い、絵図の高精細画像が容易に見ることができるようにするなど、ホームページを通じて積極的な情報発信を行った。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
学術成果リポジトリへの採録論文数及び利用ダウンロード数	
④センター業務	自己評価
④-1 目標	<p>電子ジャーナルのバックファイル予算や学生用データベースの予算を前年より増額し、電子リソースの拡充に努めた。また、SciFinderの同時アクセス数を無制限にするなど利便性の向上を図り、本学研究のため安定的に電子リソースを提供している。また、古い学生用図書の複本を効率的に不用決定していくための方策を策定し、狭隘化を解消して適切な蔵書環境構築の準備を行った。</p> <p>また、中央図書館では後期試験期間中の平日朝8時開館の試行(平成25年度の試験期間中に早朝開館を実施する予定)、サイレントゾーンの試行、語学学習コーナーの充実(AV機器の更新、資料の購入)等を行い自学自習環境の充実を図った。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
貸出冊数、図書館利用者数、E-J利用数	
【総括記述欄】	
<p>平成24年度は、従来からの研究支援、学生の自主学習環境整備について利用者ニーズをふまえて着実に実施した。又、地域貢献事業についても改善を加えながら実施し、三浦家文書デジタルギャラリーの公開など新たなサービスの提供も開始した。次年度については、研究支援、地域貢献事業は従来通り行い、利用者サービスをできるだけ維持しながら耐震改修を着実に実施する。又、将来に向けた図書館のサービス向上と機能強化について検討を進めていきたい。</p>	